

令和 3 年度 県立坂東清風高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 普通教育・専門教育を通して、確かな学力を育み、未来を創造する力を持った人材を育成する。 (2) 個に応じた学習を通し、高い専門性と実践力を培い、自立する力を備えた人材を育成する。 (3) 地域との連携・交流を通して、地域愛を育み、協働する力を養い、郷土の発展に貢献できる人材を育成する。		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	
岩井高校の歴史と伝統を継承し、坂東清風高校が開校した。 学習面では、基礎学力の定着を図り、少人数での授業展開や学習意欲の向上に向け ICT を活用した授業展開を図っている。 特別活動では、生徒が積極的に参加できる学校行事を通して、生徒の自主性が発揮され、学校への帰属意識が育まれてきている。部活動においては、今までより部活動加入者が増え、学校の活性化にもつながっている。 地域で信頼される学校づくりを目指し、ホームページの充実、「清風通信」「Let's 坂東清風」の発行や定期的な中学校訪問等、積極的な情報発信を行ってきたが、募集定員確保には至っていない。近隣の中学校においては卒業生徒数の減少はあるが、本年度は昨年度以上に学校説明会や広報活動の中で、本校の特色である総合学科・農業に関する学科の情報発信に努め、本校の良さを理解してもらえるよう努力し、地元坂東市及び近隣の市からの志願者数の増加を目指したい。	ア 個に応じた学習指導を通した基礎学力の向上を目指す	① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 ② 観点別学習状況の評価の浸透を図る。 ③ ICT を活用し、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。 ④ 各種検定試験の合格者を増加させる。 ⑤ 相互授業参観や中学校の授業参観等の取り組みを通して、学習指導の工夫・改善を図る。	B
	イ 個に応じた進路指導の実践によるキャリア教育の充実	⑥ 職業観・勤労観を形成し、自己目標を明確化させるため、個別面談の充実を図る。 ⑦ キャリアカウンセリングや地域と連携したインターンシップ等の体験的活動により、生徒の進路意識を高める。 ⑧ 基礎力の定着や学習能力の向上を図るため、課外体制の充実に努める。 ⑨ 資格取得など特色を生かす教育課程の充実を図る。 ⑩ 生徒・保護者への情報提供や参加型の行事の充実を図り、進路意識を高める。	B
	ウ 人間性・社会性を養う教育活動の展開	⑪ 学校生活を通し、自らを律するとともに、他者との協調性を培う。 ⑫ 学校行事や部活動など様々な場面で、自己有用感や自己肯定感を高め、母校愛を育成する。 ⑬ 各種講演会や面談を通し、生徒の自己理解・自己指導能力を育成し、事故等の未然防止に努める。 ⑭ 地域や社会の行事に積極的に参加し、地域社会に貢献する意識を育てる。	B
	エ 特別活動・広報活動の活性化	⑮ 生徒が主体的・積極的に参加できる学校行事を企画・運営する。 ⑯ 各部活動の加入率を高める。 ⑰ ホームページや学校説明会を充実させ、本校の教育活動を学校内外に積極的に発信する。 ⑱ 定期的に中学校訪問を行い、中学校との連携を深め、志願者の増加に努める。 ⑲ キャリアパスポートを活用し、生徒の自己理解の深化に努める。	B
	オ 働き方改革の推進	⑳ 業務内容の整理や情報の共有、OA機器の活用などを通して、校務の効率化に努める。 ㉑ 「きんむくん」の活用などを通し、職員一人一人の働き方についての意識を高め、健康と安全を確保する。 ㉒ 部活動において週当たり 1 日以上のお休養日を設けるなど、職員の時間外勤務の縮減に努める。	A

三つの方針		具体的目標		評価		次年度（学期）への主な課題	
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 確かな学力を育み、未来を創造できる人財 地域と連携・交流を通して、地域愛を育み、郷土の発展に貢献できる人財		B	B	・目指す資質・能力を意識した授業実践 ・学校と地域の連携・協働を通しての人財育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 個に応じた学習活動とキャリア教育の充実を図り、大学進学から就職まで進路希望の実現		B		・希望の進路実現に向けた進路指導の充実	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 人文、自然、情報ビジネス、ライフデザイン、農業の分野に興味を持ち、進路実現のために努力する生徒 学校や社会の規範を守り、学校行事や部活動に積極的に取り組むことのできる生徒		B		・中学校訪問や学校説明会等でアドミッションポリシーの周知	
評価項目	具体的目標		具体的方策		評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	国語の知識や技能の定着および向上を図る	「分かる授業」を展開するため、ICTの活用や効果的な言語活動などを取り入れ、系統的な指導内容になるよう工夫する。ア①②	A	A	・授業の理解度を高めるためにミラタッチやタブレット端末の有効的な活用方法を検討する。 ・生徒の実態に即した学習内容や基本的な学力の向上を図る。 ・各種検定試験への意欲喚起	
			小テスト等を有効に活用し、習熟度に応じた学習課題などを与えることできめ細かな指導の推進を図る。ア③	A			
		生徒の実態を踏まえた授業を展開する	学習内容を精選した題材などを用いることで、生徒に興味関心を持たせる。ア②③	B			
			基礎学力の確実な定着を図るとともに、個々の学力に応じた目標を設定する。ア①	A			
	生徒の進路実現のために必要な国語力の定着を図る	課外の実施や各種検定試験等の受験を推進することで、各種検定試験や上級学校への進学に対応できる学力の向上を図る。ア④イ⑧	B				
		地歴・公民	生徒の実態に即した授業展開を行う	単元毎に目標を明確に提示する。ア①	A	A	・教科横断的な学びを取り入れていく。 ・社会的な見方・考え方に立脚・社会事象への関心を喚起させ、学習事項を活用して、主体的に問題解決に取り組むことができる実践知の育成を図る。
	生徒の実態に即し、教科内容を精選した資料や教材（新聞・雑誌・インターネット・DVDなど）を提示する。ア①③			A			
	選挙権が18歳からになったことを踏まえ、主権者教育を重視する。ウ⑪⑭			C			
	生徒が意欲的に参加できる授業を行う		グループ学習や発表など生徒参加型の授業形態を取り入れる。ア①③	B			
			状況に応じた発問を行う。ア①	B			
			基礎力の向上を図る	ノート・問題集などを活用して整然とまとめさせる。ア③	A		
	数学	基礎学力の向上を図る	4つの観点から生徒の学習状況を評価し、基礎力の向上につなげる。ア②	A	A	・ICTを取り入れた授業の展開を模索する。 ・グループワーク等協同的な学習を行い、学び合いを実践する。 ・基本的な知識・技能の定着を図る。	
			「わかる授業」を展開するため、板書、発問の仕方、ICTの活用、課題プリントなどを工夫する。ア①③	A			
		問題を解く力を養う	放課後や長期休業中の補習を活用し、理解の十分でない生徒への知識の定着を図る。ア③イ⑧	A			
			生徒の学力に応じた適切な問題を選択し、課外なども利用し演習させる。ア①イ⑧	B			
		授業時の理解度を把握する	問題演習時間を十分に確保し、生徒間の教え合いを促し、やる気を喚起する指導を行う。ア①③	B			
			机間指導や問題集・ノートなどの点検により理解度の把握に努める。ア①②	A			
	理科	基礎学力の向上を図る	小テストや課題等を利用して生徒の学習状況を把握する。ア①②	B	B	・観察、実験を積極的に授業に取り入れる。 ・話し合いの活動など、言語活動の充実を図る。	
			「わかる授業」を展開するために、板書、補助教材教具等を工夫する。ア③	A			
		主体的・対話的で深い学びの実現のため、指導内容の改善	授業中に「小テスト」等を実施し、繰り返し学習することで知識の定着を図る。ア③	B			
			ICTを活用して理科への興味・関心を高める。ア③	A			
		対話を重視した授業の実施を行い、言語活動の充実を図る。ア①	B				
		観察・実験を計画的に実施し、科学的な探究心を身につけさせる。ア①③	B				

		を行う 観点別評価の更なる推進に努める	教科内の評価方法の共通理解を図り、生徒の実態に応じた適切な評価を行う。ア② 指導と評価の一体化による授業改善や生徒の意欲向上を図る。ア①②	B B		・新学習指導要領や評価の観点の見直しを部員で行い、適切な評価方法の確立を進める。
	保健体育	単元計画目標を明確に提示し、生徒の実態に応じた授業を展開する	単元ごとの具体的な目標を提示し授業を展開する。ア① 視聴覚教材を有効活用する。ア②③ 運動能力の把握と個に応じた指導を充実させる。ア①⑥	A B A	A	・3クラス同時展開の授業での一人一人の活動時間の確保 ・生涯を通じて自らの健康を管理することができる能力の育成に努める。
		時間や約束事の厳守、活動時間の確保と授業内容の充実を図る	授業開始時間を守らせる。ウ⑬ 挨拶の励行、運動に適した服装や態度を身につけさせる。ウ⑬ 種目ごとのルールを理解させる。ウ⑬	B A B		
		運動を中心とした健康的な生活習慣を確立させる	授業後のうがい、手洗い等健康面や衛生面について指導する。ウ⑬ 運動と休養をうまく組み合わせ、健康を保持増進する能力を高めさせる。ウ⑬	A B		
	芸	基礎的・基本的な技能を習得させる	基礎的・基本的な練習課題を充実させ、作品に取り入れられるようにする。ア①② 机間指導を行い、生徒の理解度を把握し、適切な助言指導を行う。ア①	A A		・生徒の実態に即した教材選び、授業展開を工夫する。
	術	のびのびとした表現活動ができるようにする	生徒の実態に即した教材の精選と教材研究に努め、授業の展開方法を工夫する。ア① 生徒間の学び合い・話し合い活動の場を設定し、表現の仕方を深める。ア①	B B	A	・話し合い、学び合い活動の充実を図る。
		教室環境を整え、学習活動の充実を図る	教室環境を整え、活動意欲を喚起する。ア① ICTを活用し、視聴覚教材を充実させ、楽しく、わかる授業につなげる。ア③	A B		・ICTを活用した視聴覚教材をさらに充実させる。
	外	基礎学力の向上を図る	生徒一人ひとりの理解度に応じて細部まで指導が行き渡る授業を実践する。ア① パフォーマンステスト等の活用・課外の充実等により、英語の基礎力の定着と、検定試験や上級学校への進学に対応できる学力の向上を図る。ア②④、イ⑧⑨ 同じ科目や学年担当教員との連携が取れるように定期的に話し合いの場を設け、授業内容や進度について意見交換をする。ア①	A B A		・基礎力の定着を応用的な学習に結びつけることを目標とする。
	国	家庭学習の習慣を身につけさせる	定期的に課題を提示し、回収点検をする。また、生徒全員が期限を守って提出するように指導徹底する。ア②③ 長期休業中に課題を課し、検定試験合格や大学進学のための基礎作りを行う。ア③④、イ⑧⑨	A B	A	
	語	授業を通して英語や日本語でコミュニケーションをとる喜びを実感させ、コミュニケーションの素地を作る	ALTとのチームティーチング等を通して、生徒が英語圏の文化に興味関心を持つような授業を展開できるように工夫する。また、表現活動を充実させて、自分たちの英語が通じることを実感させる。ア①② グループ学習やペア学習を導入することによって、「協働的な学び」の喜びを実感させる。ア①② パワーポイントやDVDなど視聴覚教材を使い、生徒の興味関心を高める工夫をする。ア③	A B A		
	家	生活に必要な基礎的・基本的な知識技術を習得させる	生活の基礎的・基本的知識や技術を習得させるため新聞記事などの新しいトピックを利用する。ア① 調理技術検定や被服製作技術検定の内容を実技指導に盛り込むことで、検定の受検意欲を高める。ア④イ⑨ 電子黒板等のICTを活用し、興味関心を深めると共に理解しやすい指導に努める。ア①③	B A A		・教科の基礎的、基本的な知識技術の習得 ・検定合格に向けての支援・生徒の実態に合わせた教材、授業内容の検討
	庭	実験実習を中心としたわかりやすい授業を展開する	実験実習の指導に実技テストを導入し、実技の習得向上を目指す。ア③ 生徒が興味をもって取り組めるワークシートを検討し、工夫改善をする。ア①	B B	B	
		家庭生活の充実向上を図るための指導を工夫する	ホームプロジェクトの実施により、生活分野における実践力の向上に努める。ア① 研修会や講習会に参加し、学んだことを生徒への指導に生かす。ア①	A B		
	情	ソフトの基本操作を身につけさせる	文書作成ソフト・表計算ソフトについて基本的な知識・技能を習得させる。ア①② ICTを活用し、学習意欲の向上を図る。ア③	B		・情報活用能力の向上 ・アプリケーションソフトを有効に活用できるよう、基礎的な知識・技能の向上
	報	情報を活用するための工夫をする	情報機器の種類と特徴を指導する。ア① 個別実習を通して生徒が主体的に情報機器を活用できるようにする。ア①	B A	B	

		情報社会について理解を深め、情報モラルを身につける	インターネットの活用方法や情報を共有する決まりを指導する。ア①⑤⑥	A	B	・校外外を問わず各科目でより多くの体験的学習（実験・実習）を行うことを目標としていく。
			ネットワーク社会のルールとマナー、情報モラル等を具体例を用いて指導する。ア①⑤⑥	B		
	農 業	勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを体得させる	様々な体験を通し、望ましい勤労観・職業観を養成し、働く喜びを体得させる。イ⑦	B		
		特色ある施設・設備を生かし、実験実習の充実を図る	生徒一人一人の能力に応じた授業を展開し、興味関心を高める。ア①	A		
教 科	商 業	農業クラブ活動の充実を目指し、様々な場面で活躍できる生徒を育てる	各教科・科目において自ら課題を持ち、課題解決のための基礎的・基本的な知識と技能を習得することにより、自ら学ぶという姿勢を身につけさせる。ウ⑪⑬	A	A	・各科目で学ぶ知識・技術の習得 ・資格取得の啓発
		基礎的・基本的な知識、技術および技能を身につける	ビジネス活動を円滑に行うため、帳簿の必要性を理解させ、帳簿の記録・計算・作成を習得させる。ア①②③イ⑧ アプリケーションソフトの基本操作を習得させる。ア③	A		
		資格取得や有用な各種検定をととして、知識、技術および技能を定着させる	資格取得に意欲を持たせ、社会の即戦力となるよう目標を持った意欲的な学習を定着させる。ア④イ⑧⑨	A		
		ビジネス活動で必要とされる能力と態度を身につけさせる	ビジネスの諸活動に広く関心を持たせ、その意義や役割の理解を深め、主体的に学習に取り組めるよう望ましい心構えや態度を身に付けさせる。ア①	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教 務	円滑な学校運営に努める	各学年、校務分掌、教科と連携を密にし、円滑な学校運営に努める。	B	・総合学科の複雑な選択授業や 調査時間割作成への対応 ・校務支援システムの活用
	授業の改善や観点別学習状況評価の浸透を図る	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について理解を深めると共に、ICTを活用した指導方法の推進・環境整備を支援する。ア①③	B	
	授業時間の確保に努める	授業終始時間の厳守に努める。ウ⑪ 職員の出張・年休の際は振替を100%行い、授業時間の確保に努める。	A	
	広報活動の充実を図る	学校新聞の発行やホームページの更新など、生徒の活動を地域に発信する。エ⑰ 定期的に中学校訪問を行い、学校の情報提供を充実させる。エ⑱	A	
	成績管理等システム化の推進	職員が円滑に成績処理等が行えるよう校内の情報機器を管理する。	B	
	情報セキュリティ対策の推進	個人情報保護を念頭に入れた情報機器の使用について、職員の危機管理意識の高揚を図る。 情報管理部職員のセキュリティ対策について技術を高めるための研修を推進する。	B B	
生 徒 指 導	基本的生活習慣の確立	朝の登校指導を含め、生徒に積極的に声をかけていく場面を増やす。ウ⑪⑫	A	・服装・態度、行動について、落 ち着きを維持させる指導 ・場に応じた適切な言葉遣いがで きるようにさせる指導 ・問題行動（いじめを含む）の未 然防止のための具体的方策の実 施 ・各種講話等の実施方法の見直し ・スクールカウンセラーによるカ ウンセリング以外での教育相談 の実施
		校内外での生徒の服装・態度について、社会通念上適切なレベルを維持できるよう指導する。ウ⑬⑭	B	
	場面に応じた対応ができる生徒の育成	チャイム着席の徹底。ウ⑪⑬	B	
		丁寧な言葉遣いができるよう指導する。ウ⑪⑬	B	
		集会等の全体行動を通して自主性を育てる。ウ⑬	B	
	交通安全指導の充実	自転車通学者の安全意識を高める。ウ⑬	A	
		バイク通学者に対して実技指導を実施する。ウ⑬⑭	A	
	問題行動の予防	各種巡回指導を実施する。ウ⑭	B	
		交通安全講話、薬物乱用防止講話、スマホ・ケイタイ安全利用講話等の各種講話を実施する。ウ⑫⑭	A	
	いじめの未然防止、早期発見に努める	自主的行動を意識させ、生徒自身が律する能力を高める。ウ⑬	B	
		「いじめはすべての学校に起こりうる」という認識で、日々の教育活動の中で注視していく。ウ⑬	A	

	いじめ発生時に早期解消に努める	当事者およびその保護者に適切に対応し、断固としていじめをやめさせる。ウ⑬	A	
	いじめの件で関係機関との連携を密にする	保護者との連絡を密にするとともに、必要に応じて警察等にも相談する。ウ⑭	A	
	いじめに関する教員研修を行う	研修を実施し、対応方法の共通理解を図る。ウ⑬	B	
	教育相談の充実	スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリングと保護者に対する助言・指導の充実を図る。ウ⑪⑫⑬	A	
進路指導	進路意識及び学力の向上	進路希望調査、進路適性検査を実施し、自己理解と進路意識の向上を図る。イ⑥⑦	A	B ・生徒の学習意欲を喚起し、家庭学習の確保や授業・課外指導等の充実を図り、基礎学力を定着させる。 ・学習指導や諸活動のあらゆる場面でコミュニケーションを高める工夫 ・学年間の情報共有を促進し、3年間を見通した効果的な、キャリア教育体制の確立 ・資格取得の積極的な推進
		進路の情報を収集し、適切な情報提供を行い、進路相談を充実させる。イ⑥	A	
		進学希望者は共通テストを目標とし、受験勉強に取り組ませる。イ⑧	B	
		各種模擬試験の効果的な実施、および課外指導を充実させることで、継続的に学力の向上に努めるようにする。イ⑧	B	
	個々の進路希望に応じた指導の充実	生徒の適性や進路希望に基づいた計画的、組織的な進路ガイダンスを実施する。イ⑥⑦	A	
		インターンシップ等の地域と連携した活動により、主体的な職業選択ができるよう支援する。イ⑦	A	
		入社試験・入学試験の際に求められる、コミュニケーション能力や人間性・社会性を養うため、模擬面接や個別指導を行う。イ⑥	B	
		生徒一人ひとりを大切にしたい個別指導を図り、望ましい進路選択の手助けをする。イ⑥⑦	A	
	より良い進路選択のための、教職員・生徒および保護者との連携の強化	PTA総会、面談や進路説明会等、あらゆる機会を通して進路情報を発信し、保護者への啓発を図り、進路実現に向け理解と協力を得られる体制を整える。イ⑩	A	
		教員対象の大学説明会や研修等へ積極的な参加を促し、進路情報の共有と教員のモチベーションを高めて生徒に還元する。イ⑮	B	
	より良い進路選択のための、教職員・生徒及び保護者との連携の強化	PTA総会、面談や進路説明会等の機会を通して進路情報を発信し保護者への啓発を図り、進路実現に向けての理解と協力が得られる態勢を整える。イ⑨ エ⑭	A	
		教員対象の説明会や研修会への参加を促し、進路情報を共有すると共に教員のモチベーションを高めて生徒・保護者に還元する。イ⑫	B	
保健厚生	健康に関する自己管理意識の向上	各種検診等を通して、自らの健康の維持増進に関する自己管理意識を高める。ウ⑬	A	A ・今年度、「生理の貧困」を解消する取り組みを行ったが、来年度も同じやり方で継続するか、あるいは方法を変えるか検証する必要がある。
	校内の環境整備と清掃活動の充実	定期的に修繕箇所の点検を実施する。	A	
		清掃用具の在庫確認と各清掃区域の用具を整備する。	A	
		大掃除やクリーンプロジェクト等の機会を利用し、清掃活動の充実を図る。ウ⑬	A	
	防火・防災訓練	具体的なマニュアルを作成し、非常時に対応できる訓練を実施する。エ⑮	A	
	保健・厚生委員会の活発化	学校行事での保健活動、各種統計処理、保健意識の啓発、各種健康学習の推進（保健）エ⑮ 環境整備活動への協力、ECO活動の推進（厚生）エ⑮	A	
特別活動	生徒一人ひとりが生き生きとした学校となるための学校行事の創造	生徒が積極的に参加できる学校行事を企画、運営をする。エ⑮	A	B ・生徒が意欲的に参加できるような学校行事の工夫 ・学校行事のICT活用を進める。 ・部活動の加入率を上げ、活性化を図る。
		学校行事を通して、集団への所属感やクラスの連帯感が深められるよう支援する。ウ⑪⑫	A	
		生徒が成就感・達成感を得られるよう学校行事を工夫する。ウ⑫ エ⑮	A	
	生徒会活動の活発化	本部役員に「生徒による自治」を意識させ、自覚と責任を持たせることにより主体的に活動できるようにする。エ⑮	B	
		「各クラスでの話し合い→委員会→生徒会行事」という形を確立する。エ⑮ 生徒の自主的・自発的な活動を支援する。エ⑮	B	
	部活動の活性化	部員に対し、技術・生活・学習面での指導を徹底し、生徒との信頼関係を深める。エ⑮⑯ 部活動紹介、体験入部の充実を図り、部活動の加入率を40%以上にする。エ⑯	B	

	生徒が主体的に自己理解を深める	学年行事やホームルーム等を通して、生徒自身が主体的に学んだことを振り返りながら、自己評価を行い自己理解を深める。 エ⑳	B	
図 書	図書館利用の推進	生徒や職員から購入希望の本を調査し、良書を選定する。 エ⑰	A	・移動放送機材のワイヤレス化。
		図書委員会の活動と新着本の情報を随時、ホームページで更新する。 エ⑱	A	
		季節に合わせて館内を飾ったり特集を組むなどして、明るく居心地の良い図書館をめざす。 エ⑰	A	
	図書部主催の文化的行事の充実	生徒や職員が楽しめるように、芸術鑑賞会の演目や文学散歩の行き先などを吟味する。 エ⑰	C	
		図書委員が広報紙『ポプラ』を行事毎に発行できるように、係職員が指導する。 エ⑰	A	
		図書委員会の活動を活性化させ、責任感があり自主的に行動できる生徒を育てる。 エ⑰	B	
渉 外	視聴覚機器・資料の充実と有効利用	HRや授業で使えるDVDを選定し、有効活用を進める。 ア②	A	・役員選出の方法 ・同窓会関係（規約等）
		視聴覚機器の保守と整備を充実させる。 ア①	B	
	P T A活動の活性化	P T A総会後、出席するだけのメリットがある催しを検討し、総会の出席率の向上に努める。また、坂東清風高校との合同で、本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したP T A活動の実施に努める。イ⑫	A	
		P T A総会中止の時は、配付する資料の内容やその方法等を検討し、P T A活動の理解を得られるようにする。イ⑫	A	
	広報活動の充実	P T A会報を発行し、学校概況や全国高P連などの活動状況を発信する。エ⑰	A	
		ホームページにP T Aのページを作成し、P T A活動の情報を発信する。エ⑰	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
第 1 学 年	基礎学力の向上と進路希望決定に向けての支援に努める	チャイム着席と授業準備を徹底し授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①ウ⑪	C	・チャイム着席と授業準備の徹底 ・設備や備品の正しい取り扱い。 ・身だしなみの徹底 ・個に応じた支援と指導の共通実践
		基礎学力向上のための支援を行う。ア②	B	
		「産業社会と人間」や進路活動を通して、生徒の適性と進路希望に添った指導に努める。イ⑥⑩	A	
	教室内外の環境整備に努める	清掃の徹底を図る。ウ⑪	A	
		教室内の生徒私物の管理を徹底させる。ウ⑪	B	
		公共の場での振る舞いや公共物を大切にする心の育成に努める。ウ⑪	B	
	基本的生活習慣の確立を図る	自らを律する力を意識させることで、場面に応じて適切に対応できる能力を育てる。ウ⑪⑬	B	
		挨拶の励行に努める。ウ⑪	A	
		時間を守る態度を育てる。ウ⑪	B	
		常に制服を正規着用できるよう声かけしていく。ウ⑪	B	
	人間性・社会性を養う教育活動の充実を図る	学校行事や部活動に積極的に参加し、自らを律し他者と協調して共に成長する連帯感を養う。ウ⑫⑯	B	
		言葉遣い、問いかけに対する誠実な返答等の礼儀指導に努める。ウ⑪	A	
		他者への思いやりの心を育てる。ウ⑪⑬	B	
		自己指導能力を高めさせ、正しい判断のもと、適切な行動がとれるよう働きかけるウ⑪⑬	A	
第 2 学	基礎学力の向上と進路希望決定に向けての支援に努める	チャイム着席と授業準備を徹底し、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①ウ⑪	C	・チャイム着席と授業準備の習慣化 ・進路実現に向けた正しい制服の着用 ・私物の管理や教室、ロッカー等の整理整頓 ・場面に応じた適切な態度の育成
		基礎学力向上のための支援を行う。ア③	A	
		生徒の適性と進路希望に添った指導に努める。イ⑥⑦	A	
	教室内外の環境整備に努める	清掃の徹底を図る。ウ⑪	B	
		私物管理の徹底を図る。ウ⑪	B	
		公共の場での振る舞いや公共物を大切にする心の育成に努める。ウ⑪⑬	B	
	基本的生活習慣の確立を図る	挨拶の励行に努める。ウ⑪	B	
		時間を守る態度を育成する。ウ⑪	B	
		制服を正規着用できるよう、日頃から声かけをする。ウ⑪	B	

年				
	人間性・社会性を養う教育活動 の充実を図る	素直な心の育成並びに場面に応じた適切な行動ができるよう支援する。ウ⑪⑬	B	
		学校行事や部活動など様々な場面で、自らを律しながら他者と協調できるよう支援する。ウ⑪⑫	B	
		進路ガイダンスやインターンシップ等を通して、進路意識の高揚を図る。イ⑦	A	

※評価基準

上記具体的方策についてA、B、C、Dの4段階評価を行う。

A 達成されている

B ほぼ達成されている

C あまり達成されていない

D 達成されていない